

第4回 臂曲岩石採取事業監理委員会 会議録

日時 平成27年3月23日 10:00~10:47

場所 遊佐町役場 議事所

出席 委員 小野廣好、佐藤良一、渋谷文夫、佐藤政樹、小野寺正博、
三浦澄雄 (6)

川越工業：川越恵次社長、川越康平常務、田口基総務部長、
菊池真治代理人、(株)大東開発・白土玄悦社長 (5)

山形県：産業政策課：佐藤賢一鉦政・計量主査、土屋真幸主査
庄内総合支庁産業経済企画課：佐藤浩之課長、佐藤守課長補佐 (4)

遊佐町：本宮茂樹副町長、池田与四也企画課長、川俣地域生活課長、
高橋善之課長補佐兼係長、石垣学主任、佐藤裕也主任、
高橋英里 (7)

合計 22人 傍聴：0人 報道：1社

1. 開会

2. あいさつ

遊佐町・本宮副町長：各委員の皆様を始め山形県のご当局、川越工業株式会社様から年度末ご多忙のところご出席いただきまして感謝を申し上げます。本日は今年度最後の監理委員会となるが、皆様からご協議をよろしくお願い申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。

山形県：日頃より本県の採石業務について、ご理解、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。これまで当委員会の中で、岩石採取の進捗状況だとか、ダンプの積載量だとか、あるいは濁水対策、更には緑化対策等について委員の皆様から建設的なご意見を賜り、さまざま協議を進めてきた中で、それぞれの立場で課題解決に向けてご助力されてきたものと考えている。このことはすなわち、監理委員会が設置目的に沿って、しっかりと機能してきた証だというふうにも思っている。今年度は、この監理委員会が最後になるが、引き続きこの委員会が課題解決に向けた協議の場になることを期待し、挨拶とさせていただきます。

川越工業：年度末でお忙しい折、このような場を持っていただけることを、まずは遊佐町、そして県の皆さんに感謝申し上げます。委員の方々からもお忙しい中ご出席いただき、お礼を申し上げます。当監理委員会において皆様とともに建設的な議論をしていければと思うので、よろしくお願いする。

3. 協議

委員長：それでは、協議について暫時の間座長を務めさせていただきます。いろいろな方面から活発なご意見をいただきたいと思います。(1)平成26年度の搬出量について、川越工業さんからご説明願う。

(1) 平成26年度の搬出量について

川越工業：資料を見ていただきたい。2枚目にある通り26年3月から今年の2月までの採取数量である。採取計画としては、全体で120,782立米を計画していた。そのうち先月までで51,865立米掘削をしている。パーセントでいくと、42.9%を採取している。この採取量については、場内のストックした数量も含んでいる。場外運搬した風化岩については、1,706立米である。今年は雪も少なかったもので、例年であれば冬は採石場を閉鎖しているのだが、今年は冬も作業車で除雪を行い、採掘をすすめていた。今日現在もやっているが、作業は順調に進んでいる状況。

委員長：26年度の採石の搬出状況について、場内にストックしてある岩石量も含めて採石というカウントになっているようだが、質問があればお出しいただきたい。

委員：風化岩とあるが、具体的にどのようなものを指すのか教えていただきたい。

川越工業：通常、庭石として扱っているものを呼んでいる。

委員：風化岩というのは、ほとんど表面にある石と理解してよろしいか。

川越工業：はい。

※ 後日、風化岩については、庭石や表面石でなく「岩ズリ」と呼ばれている土砂のことである旨訂正済み。

委員長：私から一点宜しいか。ストックした量も含めての51,865立米ということだが、ストックの量と実際搬出した量のおおよその数量はわかるのか。

川越工業：この資料は、あくまでストックと搬出した運搬数量を合わせたものの採取数量となっているが、あいにく今日担当者が不在のため、後日報告させていただきたい。

※ 後日、場内にストックしている岩石の数量は、8,700立米との報告あり。

委員長：皆様からないようであれば、次に進めさせていただく。(2)濁水対策による沈殿池の設置について説明をお願いします。

(2) 濁水対策による沈殿池の設置について

川越工業：前回の委員会で、ストック場からも林道の脇の水路に流れ出ているのではないかというご指摘がありました。前回の監理委員会でお話があったとおり、平場に小さな沈殿池を作って、それに集水をしたうえで、上水を流すという方法をとりますということを説明させていただいた。このところ雪解けも進んできているので、3月18日に水路も新たに整備をし、溜まっていた土砂も取り出し、新たに沈殿池を設置した。写真のとおりである。

委員長：今の説明については、皆様のお手元にある写真がその状況である。町の方でも直接行って確認したので、それについては課長より説明願う。

遊佐町：日付の記載のとおり、3月18日に町職員2人で現地の立ち入りをし、掘削の状況、設置の状況を確認した。写真も撮ってある。当初2m×2mの規模で施工するとの話だったが、現場状況に応じて、より効果を高めるという趣旨で約3m×3mの規模で設置してあることを確認している。

委員長：何か質問等ないか。沈殿池は何か所掘ったのか。

川越工業：今回新たに掘ったのは2か所である。

委員長：資料の写真番号でいうと何番と何番が新たに掘ったものか。

川越工業：4番が上幅3m×3m、5番目の写真が下幅が1m×1mという表記になっていて、これは同じもので、まずは1か所目。次のページのナンバー11と12、これが2か所目。

委員長：より上部の方にあるのがどちらか。2つがレベル的には同じような場内の標高のところにあるのではなく、だんだんという形になっているのか。1か所オーバーフローしたものが次のところに行くというのではなく、流れてきたものがそれぞれのところを流れていくという理解でよろしいか。

川越工業：はい。

委員長：皆様の方から他にないか。この課題が昨年度により顕著に出てきたのは、やはり降雨量の多い時にこの状況が出てきていたようだ。その対策としての沈殿池であるが、10番11番12番あたりだと、かなり水が溜まっているようだが、雨が強く降った時は大丈夫か。

川越工業：昨年までも通常の沈殿池で対応していたが、更に強い降雨の状況に対応するため新たに作った方がいいんじゃないかと前回の監理委員会で議論があった。そのため当初2mと考えていたが3mにしたところである。

委員長：このことについては前回も話したが、状況によって変わってくる面が色々あるかと思う。2か所ほど沈殿池を増やしたという会社からの説明であるが、もし対策が更に必要になればご意見を出していただければと思う。続いて(3)来年度の事業計画について、説明願う。

(3) 来年度の事業計画について

川越工業：採取の事業計画については、搬出量としては約1年分が現在終わっている状況である。認可申請書にあるとおり、1年目2年目3年目ということで採取計画を出している。そのうちの2年目の計画としては、242,598トンをめざして採取の計画をしている。

委員長：ここに事業開始の時期、緑化という項目もレジュメに載っているのですが、そちらについても説明を願う。

川越工業：事業開始時期については、例年であれば冬期間は採石場を閉鎖しているが、今年は通年で作業ができる状況であったので、今日も作業はしている。年度で分けるということであれば、4月の1日からということになる。続いて緑化について。先ほどから話しているとおりの今年の雪の状況は非常に少ない。今苗を発注しており、4月の10日前後から2,445本の杉を植林する計画となっている。

委員長：2,445本植林するということですが、概ね期間はどれくらいかかるものなのか？

川越工業：まず2カ月。梅雨の前までに終わらせられればよいと思っている。

委員長：皆様から意見をいただく前にもう1点だけ。先ほどの242,598トンが27年度の計画ということであるが、今年度の実績では立米で報告いただいた。そ

それぞれの立米数量をトン換算した場合、資料のようになるという計算でよろしいか。そうなると、全体で72万トンの採取計画のうち27年度は3分の1に当たる24万トンということだが、今年度の実績の13万トンと比べると10万トンほど多いが、そういう状況ということに理解してよいのか。

川越工業：はい。

委員長：県と町の対応についてもお聞かせ願う。

山形県：今年は雪が少なかつたため、だいぶ採石できたと思っている。また来年度もこのような天気の状態になるかどうかはわからないが、実際のところ24万トンというのは可能性としてはどうなのか。

川越工業：一概には言えないが、比率から言うとそのくらいになるだろうという予測で出した数字である。

山形県：あくまで計画上の数値ということで、実際に掘るとそううまくはいかないというのは理解している。県としては、来年度も巡回監視員1名を配置し、これまで同様週1回のペースで現場の方をしっかりと巡回するという体制をとっていきたい。そういった中で先ほどの濁水の関係、沈殿池が適切に機能しているのか、緑化の場合の立ち会いですとか、そのあとの状況含め我々の方では監視をさせていただき、必要な場合には適切な対応をお願いしたい。

遊佐町：町といたしましては、只今の県の対応の話がありましたが、県としっかりと連携を取り、地元の皆さん、事業監理委員会の委員のみなさんと息を通じ合わせながら対応していきたいと思っている。現場の立ち入りということに関しては、会社の方からご協力を得ながらということになるかと思う。今年度のやり方を基本に、来年度は指導監視、立ち入りに関しては更に充実を図りながらと考えている。具体的には毎月1回の現場確認をさせていただく。今年度は7月から行ったが、来年度は4月から企画課と地域生活課、産業課の3者で現場の確認をしていきたい。内容については事業計画の進捗状況、雨天時の泥水対策の対応がどうなっているか、沈殿池の状況がどうであるか、機能を果たしているかどうか、緑化対策についても来年度の前半ということになるが、植栽の状況、そしてしっかりと根付いているかどうかを指導権限者である県とも連携を取っていきたい。運搬ルールについても、時間、トン数、それから台数、そういった関係も確認をしたいと思うし、運行上の安全が確保されているかどうか、町道の変異、轍の状況の計測をしながら、ということで計画的に進めていきたい。

委員長：県や町の状況についても説明をさせていただいた。皆様からご意見ご質問あればお出し願いたい。

委員：植栽について尋ねる。今年度2,400本の杉を植える予定とあるが、杉というのは何平米に何本で植えるのか教えていただきたい。

川越工業：1ヘクタール3,000本の計画になっている。約1間に1本です。

委員：もう1つ。去年も植栽したと思うのだが、そちらの根付き具合を写真に出していただけないか。それから、緑化というのは景観面でも効果があると思うので、で

きるだけ早めに植えていただきたい。

委員長：よろしく願います。先ほどあったようにして県、町、それぞれ体制の中で確認をしていきながらということのようだが、当監理委員会としても川越工業さんと情報をやり取りしながら適切な時期に確認をする必要もあると思っている。そのほか、皆さんの方からないか。ないようであれば、(4) 次回の監理委員会の状況について説明をお願いします。なお監理委員会の取り組みについても触れていただけないか。

(4) その他

事務局：次回の監理委員会についてご提案させていただく。時期としては6月の下旬から7月の中旬にかけて、梅雨に入る前に開催できればと考えている。去年は時期が遅くて、豪雨の対応が後手に回った感じがあったので、雨が多く降る前に現場の方を確認しながら、開催させていただければと考えている。その時に今回写真で示した沈殿池の工事の状況、緑化もある程度進んでいると思われ、ご覧いただければと。会社の方から了解いただければそのようにしたい。

委員長：当然委員の皆様から出たように緑化の状況、これまで植栽した現地の状況、沈殿池の状況含めて現状を見させていただくことで了解をいただきたい。次回管理委員会でこういうことも、という要望があれば出していただきたい。ないようでしたら、先ほど申し上げた点を中心に、次回監理委員会は現地を踏みながらということにしたい。他になければ、協議を終わらせて、事務局へお返しする。

4. 閉会

事務局：来年度もよろしく願いたいですが、構成委員の中には区長さんが入っている集落がある。今期は区長交代期にあたり、交代される方もおられるかと思う。その集落の判断に委ねたいと思うが、区長を退任されても引き続きという集落があっても良いと思うし、新しい区長を代表として委員に推薦という集落があっても良いと思う。新年度になったら、委員の各集落あるいは各団体の候補者の推薦をよろしく願いたい。新旧で人が変わろうと変わらまいと、しっかりと事業監理委員会で取組んでまいりたいので、今後ともよろしく願います。